

第 8 1 7 回

定例教育委員会会議録

日 時 平成 2 8 年 5 月 2 6 日 (木) 1 3 : 3 0 ~

場 所 市民学習センター 1 0 2 号室

益田市教育委員会

第817回 教育委員会定例会

招集年月日 平成28年5月26日（木）13時30分～

招集場所 市民学習センター102号室

議事日程

第1 会議録の承認について

第2 教育長報告について

第3 議題

議第11号 益田市社会教育委員の委嘱について

報第19号 益田市教育行政に関する相談に関する事務を行う職員の指定
について

報第20号 史跡益田氏城館跡（七尾城跡）における史跡指定地の寄附申
出について

第4 その他

- ・ 国立歴史民俗博物館を中心とする共同研究について
- ・ 教育委員会事務事業点検・評価について
- ・ 教育の概要について
- ・ 公民館の活動状況について
- ・ 未来を担うひとづくりに関する事業について
- ・ 献立について
- ・ 益田市中学校総合体育大会について
- ・ 寄附・寄贈について
- ・ 熊本地震への対応について
- ・ その他

出席者

教育委員会	教 育 長	村 川	修
	教 育 委 員	永 田 千 秋	
	教 育 委 員	水 上 芳 枝	
	教 育 委 員	渡 辺 隆	
	教 育 委 員	中 野 純	

事務局職員	教 育 部 長	川 原 敏 之	
	教 育 総 務 課 長	島 田 博	
	学 校 教 育 課 長	澤 江 幸 実	
	学 校 教 育 課 参 事	城 市 博 明	
	社 会 教 育 課 長	大 畑 伸 幸	
	人 権 ・ 同 和 教 育 推 進 室 長	田 中 智	
	文 化 財 課 長	木 原 光	
	教 育 総 務 課 長 補 佐	山 本 勝 利	
	教 育 総 務 課 主 事	岩 本 純 平	

村川教育長　それでは第817回定例教育委員会を開催したいと思います。

(会議録の承認)

村川教育長　会議録の承認をいただきましたので、続いて教育長報告に入りたいと思います。

(教育長報告)

村川教育長　《P2～3教育長報告で説明》
何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員　＝全員了承＝

(議題)

村川教育長　それでは議題に入りたいと思います。まずは議第11号の益田市社会教育委員の委嘱について説明をお願いいたします。

大畑課長　お手元の資料にありますとおり、先月社会教育委員の選任のほうをご審議いただきました。当初大賀委員さんにご快諾いただいたんですが、家業の都合で急きょ辞退させていただきたいとのことでしたので、新しい委員さんの選任をお願いしたく提案させていただきます。

村川教育長　大賀委員さんを選任した後、都合により辞退されるとのことで、高島尊子さんを新しく選任したいということがございます。放課後児童クラブ支援の会という立場でも活躍しておられます。これについて何かご質問等ありますでしょうか。

渡辺委員　選任したばかりで辞めざるを得ない事情があつて続けられないかもしれないというのであれば、初めから断ったほうが良いような気がしました。

大畑課長　そここのところを確認はしたんですが、次回に向けて反省材料にさせていただきますと思います。

村川教育長　ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは承認いただける方は挙手をお願いいたします。

教育委員　＝全員承認＝

村川教育長　続きまして、報第19号の益田市教育行政に関する相談に関する事務を行う職員の指定について説明をお願いいたします。

島田課長　益田市教育行政に関する相談に関する事務を行う職員の指定についてですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中に教育委員会がいくつかの職員であるとか役職を指名するという規定があります。その中で教育行政の相談に関する事務を行う職員の指定というものもありません。今まで事務分掌上は教育総務課の総務係が担当してはいたんです

が、しかしながらそれを公表するという事はしていませんでした。先般全国的に市町村教育委員会にそれぞれのいろんな役職や総合教育会議などの設置についてどのように進んでいるのかというアンケート調査がありまして、その回答の中で「公表していない」という団体が全国で3%ございました。益田市教育委員会としても指定をしていないわけではないんですが、正式に公表するという手順を踏もうということで、遅れてはおりますけども、P8にありますとおり告示という形でこの指定を事務分掌どおり教育総務課総務係をこの指定する職員ということで、改めて市民の皆様方にお知らせしたということでございます。

村川教育長　　そもそもこの相談事務については業務もあり、実際に任にあっていたこともあったわけですが、公表という形式的なことをしていなかったということです。改めてそういうことを告示したということになります。これによって改めてきちんとした業務にあたっていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員　　＝全員了承＝

村川教育長　　続きまして、報第20号の史跡益田氏城館跡（七尾城跡）における史跡指定地の寄附申出について説明をお願いいたします。

木原課長　　これにつきまして経過と現状と予定について説明いたします。今年の2～3月に株式会社ジュンテンドーの創始者であります故飯塚道正氏の名誉市民の決定と称号贈呈式がございました。その動きの中でジュンテンドーでは飯塚家に残る文化財は広く市民に開放すべきとの故飯塚氏の意味があったということ、それから七尾城の麓の飯塚家の土地について、ジュンテンドーの発祥地でもありますけども、国指定を受けたことをきっかけに、隣接する株式会社ジュンテンドーの土地も併せて公有地化に協力してはどうかというお考えが会社の中にかねてからあったということで、それを踏まえて3月15日に飯塚様と株式会社ジュンテンドーからそれぞれ私有地について寄附申出書が提出されました。場所は資料に図面を載せている所です。4月7日に益田市として市長を含めて会議を開催しまして、この申出を受け入れる方針を決定し、以後必要な手続も既にできております。近く財産取得の市長決裁を経て、6月上旬には寄附による無償の土地贈与契約の締結を予定しております。土地の所在地は先ほどの位置で、全部で9筆の土地になります。現況は空き地の雑種地と山林でございまして、今年度の評価額は約2,800万円相当の土地ということです。この土地は平成16年に国の指定を受けている範囲内の土地になりますけども、この史跡については保存管理計画書で位置づけがもちろんされているわけですが、その中の「土地の公有地化につ

いて」という項目において、「長期的な観点から段階的な土地の公有化を検討する」という位置づけの土地に該当するものであります。そういうところもありましたので、是非公有地化を進めることに願ってもない方針であると考えております。当面の利用計画ですけれども、しばらくの間は七尾城への来迎者の駐車場として利用するというのを計画しております。今後の具体的な活用策については今後検討して、平成29年度に史跡益田氏城館跡、これから三宅御土居と七尾城の整備基本計画を作ることを予定しておりますけれども、その中に書き込んでいくというふうに考えております。

村川教育長 七尾城跡の指定区域内にある土地につきましては、長期的には公有地化を図っていくという基本的な考え方がありますが、その中にジュンテンドー及び飯塚さんから申出があったということで、受けていく予定でございます。これについて何かご質問等ありますでしょうか。

渡辺委員 将来的にそこに何か建物を建てる予定というのがあるんですか。

木原課長 この場所は城の山裾にありまして、かつてはそこに川跡といいますか、湿地状のいわゆる自然の堀というものがあつたであろうということがボーリング調査等で推定されましたので、範囲に入れて指定した場所です。建物というよりもそういう城の防護の地形を何らかの形で表示したり、ガイダンス機能を持たせたり、駐車場等の見学者のための利便施設にしたりという形で整備する場所であろうと考えております。

渡辺委員 私は将来的には駐車場という形で置くんじゃないかなという気がしているんです。そうすると教育財産として取得しなくても一般財産としておいたほうが管理も簡単でいいんじゃないかなと思ひまして、今のようになると教育委員会にどんどん負担がかかると思ひます。何か大きな計画があればいいとは思ひますが。

木原課長 ご指摘のようなどころもあるんですが、最終的な方針としては史跡指定を受けている土地の寄附という部分で行政財産としていくという方向で確認をされて、それに向けて進んでおります。将来的な整備活用についてはしっかりと平成29年度の基本計画で検討したいと思ひております。

村川教育長 整備基本計画の中でどうしていくかということがこれからの非常に大きな検討事項だと思ひています。

渡辺委員 七尾城の見学者のための駐車場という程度であれば、教育委員会がこれを管理しないといけない、教育財産として残さないといけないという程度のものではないんじゃないかなと感じました。

村川教育長 実際に文化財というものも単に教育財的な価値が当然中心になって広く価値が広がっていくと、おのずと関わっていく部署も一緒になってやっていくようなことになると思ひます。ほかにご質問等ありますでしょ

うか。よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

(その他)

村川教育長

それではその他に入りたいと思います。何か報告事項がありましたらお願いいたします。

木原課長

平成26年度から3年間の予定で益田市と県の古代文化センターと東京大学史料編纂所とで三者による共同研究が進んでおります。一応今年度をもって終了して、来年度調査研究報告書、それからできれば石見美術館でその成果発表の展覧会を大規模にやっていただきたいと考えています。

それとは別の外部の研究機関との新しく連携した研究として、千葉県佐倉市にあります国立歴史民俗博物館からの打診による共同研究が今年度からスタートします。これも3年間の予定をしております。この研究は、中世益田氏の勢力エリアは益田市のどちらかという東寄りの、かつての益田荘という荘園エリアを基盤としているんですが、今回のこの国立歴史民俗博物館が対象としますのは、その西側、高津川より西に形成された長野荘という荘園エリアのある部分を取り上げて中世の研究を進めていくということになります。地域社会に武士による支配がどのように及んでいったかというところで、いろんな地名が残ったり、景観が残ったり、遺物があったりして、かつ、東京大学史料編纂所が所有する益田家文書の規模には及びませんが、日本大学等にはかつて横田辺りを本拠とした内田氏に関する中世文書がまとまって残っております。そういうものも利用しながら地域社会がどのように支配を受けていったかということの解明する恰好のフィールドであるということで選んでいただきました。現在の町で言いますと、研究対象となりますのは横田町、安富町、梅月町、本俣賀町、左ヶ山町、須子町、そういった辺りの所が主な対象となります。5月13～16日に現地調査がございまして、この時の様子をひとまるビジョンや新聞各紙で取り上げていただいたところです。今年9月には益田で研究会と第2回目の現地調査がありまして、総勢14名の研究者の方が来られる予定になっております。次回以降にまた資料を準備してご説明させていただきたいと思います。

村川教育長

今までの益田氏中心の研究調査に加えてそれ以外の所ということで、これで益田市全体がかなりカバーされるんじゃないかと思えます。地域住民との関わりみたいな観点での調査ということで、国立歴史民俗博物館という中枢の機関が全国の中でも一番関心を持って研究に入っておられるということは、相当大規模な調査にもつながっていくようです。我々としては非常にありがたいといえますか、歴史に対してこれからの

ろんなまちづくりに取り組んでいく中では後押しされたものでありますので、できるだけ市民の皆さんにもこの状況をお知らせして、今までも益田氏をかなりPRしてきたわけですが、それ以上に更に価値があるといえますか、誇りにしてもらうためにもできるだけ広く周知していきたいと考えております。学校現場とか様々な場を核にしながら、子供たちの関心につなげていけるんじゃないかと思っております。これについて何かご質問等ありますでしょうか。

渡辺委員 前にこの国立歴史民俗博物館へ行ったんですけど、江戸の町の素晴らしい模型があって、すごく詳細に作ってあって、やっぱり国立だなと思いました。そうしたところで益田氏の紹介をしていただけるのなら、それは嬉しいことだなと思います。それだけの価値のある益田家の歴史というものをそこで紹介するのなら、益田もこれから躊躇せずにとんどん公開して、益田市の方も市外の方も勉強しに見に行くというような形になればいいと思います。

村川教育長 今度の議会でもスタートしたことを紹介しながら、価値観を高めていければと思っております。

木原課長 この研究については企画展での成果の公表とセットで予定しながら進められておりますので、国立歴史民俗博物館で予定されておりますけども、益田に関するコーナーは是非益田のどこかで分離してでも別に企画していただきたいという要望をしているところです。

村川教育長 ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

村川教育長 そのほかにもありましたらお願いいたします。

島田課長 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価についてでございます。お手元に当日資料としてお配りしております。地教行法でも規定がありますように、毎年教育委員会は事務事業を評価・点検した上で、議会に報告するとされております。それに沿いまして、今年も今まで同様にやらなくてはならない業務ではあります。ただ、昨年度の作業の中で評価に追われているといえますか、評価だけに終わってしまって、それを次にどうつなげていくのかというのが明確でないという課題を頂いていたというのと、昨年は非常に遅れていまして、12月議会での報告となりました。いろんな市町村の教育委員会の報告を調べてみたんですが、益田市との違いというのが、一つ一つの事業について評価して、その評価を外部評価委員会で評価していただくというやり方をしているところは非常に少なかったということです。多くの教育委員会では重点項目を定めていまして、それぞれに構成する事業、事業の評価シートというのは当然あるんですが、その重点項目を構成する各事業別に区分していまし

て、それぞれを評価する中でその重点項目がどのように進捗しているかというような報告書にまとめているというところが多くありました。それと外部評価委員会を設置している市町村というのが全国で約50%、残りの50%は委員会ではなくて各個人に委嘱して委員さんから意見を求めているという形のものでした。どちらにしても外部評価委員が益田市では5人いらっしゃるんですが、5人の委員さんの意見を委員会の中で最終的に1つに取りまとめたような構成にしていました。ですから自分が出した意見がほかの委員さんの意見とかぶさって違う文章表現に変わってしまっているというところがありまして、そういう実情を踏まえて前外部評価委員長の末成さんにご意見をお聞きしてまいりました。するとやはり同じように自分の意見がほかの意見と重なって違うものに出来上がってしまうということには抵抗感があるということと、評価する立場であるけども決して自分たちは教育の専門家ではないので、専門家でない自分たちが評価するというのに抵抗感を持っていたということをおっしゃっていました。そういうご意見や他市の状況も踏まえまして、今年度からの評価の手順といたしましてはこのようにしてはどうかという案を今持っております。お手元の「評価手順」という資料がその案なんですが、益田市の重点項目というのが教育大綱に定めました4つの項目に今集約されています。それぞれに今回平成28年度教育行政の取組方針、市長の施政方針の後に教育長から申し上げました方針ですが、これもこの4つの項目に沿って、それぞれを進めるために細かくどういう事業を行うという内容で作成しております。そういう流れから言いますと、この4つの項目がそれぞれどのように進捗しているかという自己評価をして、それぞれ外部評価委員さんの意見を求めるという形にしてはどうかと今考えています。いずれにしてもそれぞれ重点項目を構成する事業の個別の事業評価というのは必要になってきますので、それについてはお手元にお配りしている点検・評価シートで今までどおり事務局のほうで作成してまいりたいと考えています。昨年までは2ページにわたるものだったんですが、内容的には同じものでコンパクトにしているといえますか、文章表現を短くまとめるようにできないかなと考えまして、今これで進めているところです。実際に点検・評価作業を進めていかないとなかなかこれでは書きづらいとか、それぞれ事業によって特性がありますので、とりあえずこのシートに沿って作ってみて、問題があれば修正して最終的な統一したシートにしていきたいと思っています。基本的にはこれに沿った形で、今各課で評価のほうを進めているところです。重点項目が4つありまして、それぞれ構成する事業は今年度19ほどその中に入れておりますけども、これが今後点検作業を進める中でこれも付け加えたらどうかという意見も出てくればここはいくつか増えていく

可能性もあります。例えば「学力向上を支えるための施策の推進」であれば5つの事業を乗せておりますが、これにつきましては昨年教育大綱を定めた後に、その教育大綱を踏まえた教育行政の取組方針というものをさらに6月議会で説明しております。その中に各重点項目を構成する細かな事業として載っているものをこの中に入れております。他の教育委員会を見ますと、この構成する事業というのは50～90くらいのかかなり多くの事業を評価しておりますけれども、昨年は11くらいでしたので、まず形を変えるということを今年は中心にやりまして、最終的にはここを構成していく事業数を徐々に増やしていきたいと考えております。それぞれの重点項目についてどのように進捗していったかということ进行分析した上で今度は外部評価委員さんのほうに評価を求めるという形になるんですが、外部評価委員さんには事業体系ごとの意見を求めるということで、所見としてそれぞれ5人委員さんがいらっしゃいましたら、それを一つにまとめるのではなくて、一人一人の意見として掲載していくような形にしたほうがいいのではないかと考えています。この外部評価委員ですが、規則には「5人」ということで規定しておりますが、未成前委員長にもこの5人というのも多すぎるのではないかと意見をいただきました。今年やり方を変えるのであればちょうど委員の任期も切れておりますので、教育に携わっておられる方や大学の教育関係の方、それから校長経験者、PTAの方などを中心に3人程度にこれを変えてはどうかと考えております。もし今日ここで変えても構わないというご意見をいただけましたら、教育委員会規則ですので、これを「5人以内」というような改正をいたしまして、当面3人程度で再スタートを切らせていただければと思っております。それから評価シートをご覧いただければと思いますが、真ん中下の所に「妥当性」「公平性」等それぞれ個別の評価項目を設けておりますが、今までですと「適切」というのと「見直す余地あり」という二つに集約されておりました。ですが平成27年度の実績を踏まえて平成28年4月からもう改善して事業を進めているものもありますので、そういうものも公表できるよう、既に今年度は改善しているというような項目と、改善の必要性は感じているけれども今年度にはまだ反映できてなく、来年度以降に改善の見込みがあるというような項目も加えて、ただの自己評価で終わるのではなくて評価したものを次にどうつなげていくかということもそこに表現できるような形でシートを再構成しております。

村川教育長 教育委員会事務事業の点検・評価ということで、いわゆる外部評価という表現をしておりますけれども、これについて昨年までの手順と変更して重点化するという、それから評価そのものをまとめるのではなくてそれぞれ意見の全文を載せるということで様々な大きい変更点があり

ます。委員の数も変更するという事で規則改正も伴います。これについて何かご質問等ありますでしょうか。

渡辺委員 外部評価委員が3人になるとして、その方々にこの評価シートを提出して、これについて発表されるんですか。

島田課長 昨年まではそれぞれ評価シートについて当然事前にお配りしているんですが、再度どのような視点でこれを評価したかということを経務局から説明しました。それを2回ほどやりまして、3回目にそれぞれの委員さんから頂いた意見を1つにまとめるという作業をしております。

渡辺委員 その1つにまとめるという作業は委員さんが理解の中でされたんですか。

島田課長 ご理解いただいている上ということなんですが、昨年の最終の3回目は5人のうち3人の委員さんしか参加がなくて、2人欠席の中でまとめられたという経過があります。

渡辺委員 それだから若干不満が出たということですかね。

島田課長 不満としてのご意見はいただいてないんですが、どうしても真反対の意見があるのにそれが1つになるというのが事務局側としてもすごく抵抗感があったということです。

渡辺委員 一番大事なのは外部評価委員さんが見られて評価をされた中で訂正というか改めていくという姿勢というのが大事だろうと私は思います。やっぱり多くの人に理解を得ながらいろんな公共事業というのは進めていくべきですから、その辺りというのがきちんと基本に沿ってしていただければと思います。言いつばなし、聞きつばなしで終わったのではもったいないですから。

永田委員 仮に真反対の意見が出てもそのまま載せるんですか。この3人の方の意見を一緒に載せるとなると、全く逆の意見が出ていてもそれを一応出た意見として取り上げるということですよ。

島田課長 益田市教育委員会の場合は改めて外部評価委員さんが評価をされているというようなニュアンスがすごく強くあったように感じます。ほかの所では評価そのものではなくて、ここの進み具合が遅いのもっと力を入れてほしいとか、ここについては完了したのではないかというような意見が多くあったように感じます。そこの感じ方が違うというのはやはりありますが、そこはそれぞれの文章ですので、訂正なくそこは掲載されているというパターンが多くあったと思います。

中野委員 教育大綱に基づいた事業体系ということで、この事業費という所で4つの項目についてそれぞれの事業実施を細かくまとめられて、それについて評価するという流れでいいわけですよ。実際外部評価と言われましても、ちょっと気になるのが、直接携わられることがあるのであればある程度評価ができる部分もあると思うんですが、内部で手続が終わっ

た時点で外部評価というのが、携わってない方々にお分かりいただけるのかというところがちょっと心配です。

島田課長 その点については前委員長からも同じようなご意見をいただきまして、確かに事務局の説明はそこで受けなければならないものですが、実際分からない、現場がどう動いているのか分からないので、ただの説明だけではなくて現場視察であるとか、そういうことを説明の中に取り入れていただきたいというご要望はいただきました。

中野委員 視察等がありましたら評価がしやすくなるのではないかと思います。

村川教育長 委員さん方にも是非そういう機会を増やしていければと思います。

水上委員 何といても煩雑な作業だなというのを毎回感じるんですが、それでも評価するには責任があると思いますので、やっぱり自分で見て、自分でいろいろ意見を聞いた中であるというのはどなたが評価されるときも大事な視点だと思います。昨年もそういった意見がたくさん出ていましたので、やっぱりその事業内容、現場があるものなら現場を見るとか、資料があるものだったらしっかり資料を提示していただくとか、そういう判断材料をいただくというのが大事なことだと思います。

村川教育長 それではこういう方向性で進めさせていただくということで、必要な手続はまたとってくということですよ。

島田課長 はい。それで委員のほうの規定なんですけど、「5人」という所を「5人以内」に変えさせていただいて、再スタートさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

村川教育長 よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

島田課長 それでは来月また提案させていただきます。

村川教育長 よろしくお願いします。

永田委員 例えば「学力を支えるための施策の推進」という所で、学び舎ですが入っていますしいいと思うんですけど、これだけで果たして今の子供たちの学力を支えることができるのかな、いったい何をもって教育委員会は子供たちの学力というものを捉えているのかなと思ひまして、そういうことは今から考えられるんですよ。

村川教育長 それも重要なことなんですけど、これは予算事業名でありまして、とは言っても実際には学力向上プランというものを作ってそこを中心にやっている、いわゆるゼロ予算じゃなくて日頃の活動そのものをそこへ重点を置いているわけで、そういう予算事業名にないものを出していくかどうかということになると思います。

永田委員 予算が入らないところには入ってこないということですかね。

村川教育長 そういうものも加えてこの事業名としていくかどうかということですよ。予算的には表現されていないものもありますが、そういうものは実

際には皆さんの人件費が事業費として学力向上の様々な取組をしていますので、そういう特別なプランなり方向性を持った活動をここへあげていくかどうかということになります。

渡辺委員 言ってみれば総合的な評価というのがこの部分の中に入るのかどうかということですね。今の予算上の事業で評価をするというだけでいいのかどうかということです。

村川教育長 確かにこれだけで見ると総合的なところがこの事業からはつながってこないですね。

澤江課長 付け加えますと、学力向上を支える施策の推進というのが5つあるんですが、これはあくまでも教育行政の取組方針の中に入っている言葉になります。したがって学力調査とかそういったものは入っていないということになります。本来学力向上連携推進事業というのがありますが、今この中には入っていません。学び舎ますだというのは予算が元々ないものですので、学力向上連携推進事業の中で消耗品が少しあるくらいのことです。実際には予算の事業費にはないということになります。

村川教育長 取組方針そのものにも明確に「教職員の授業力向上」「学習集団づくり」「家庭学習の充実」「学校経営」の4つを柱とした平成28年度学力向上プランを策定して学力向上に取り組んでいくということを最初のほうで述べておりますが、この項目的にどうするかはまた検討させていただきたいと思っております。ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 そのほかにありましたらお願いいたします。

島田課長 6月くらいのところで毎年教育の概要というものを作成してお配りをしております。まだ今年度分は作成中ではありますが、各学校の児童生徒数などを5月1日の状況で取りまとめまして、それ以外のところは昨年度の事業実績などをまとめた資料集として作成しております。その最初のほうのページに今年度のそれぞれの課の事業方針といたしますか、こういう事業をやりますというようなものを載せておりましたが、今年度からはあくまでも教育大綱を中心ということで、教育大綱を改めて載せまして、それを踏まえた形で今年の教育行政の取組方針、教育長が3月議会で表明された内容がありますので、それも全文を掲載して、その後ろに資料集として各データを載せるような形で今準備をしております。6月議会で各議員さんにそれをお配りする予定としておりますので、来月の定例会で各委員さんにもお配りさせていただこうと思っております。

村川教育長 これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長
大畑課長

そのほかにありましたらお願いいたします。

お手元に公民館活動状況の一覧表の冊子をお配りしております。本来ですと今日ご意見いただいて、それを公民館にお返ししようかと思っていたんですが、手違いで今日お配りしましたので、今県のいろんな機関にもこれの分析をお願いしているところですが、委員の皆さんからもご意見をまた次回までに、もし途中でもございましたら社会教育課までご意見・ご感想を是非お寄せいただきながら、公民館活動についての充実を図ろうと思っております。昔の公民館活動と違って地区振興センターと一緒にすることによって、今公民館主事が大きく入れ替わって、以前からおられた方が今2人しかいないという状況になっています。若干移行期の方もおられますが、多くの方が新しい方になっているということ、ほとんどが地元推薦であるという中で非常にスキルが高まっていないというのが一つあるだろうと思っております。もう一つは館長さん方のご理解が非常に薄いというのを強く感じています。任命が地元推薦で、ミッションが自治組織ということになっていますが、地元の課題をきちんと掘り起こすことが社会教育の一番大事な仕事であったところが煮詰まっている、すなわち4人の職員がいながらその4人が何をすべきかということやなかなか行政としてうまく合併以後10年間でできていなかったというのが総括になるかと思っております。内情を見ていただくとご確認いただけるかと思いますが、今年度公民館には人口拡大課、社会教育課、それから健康増進課等々で公民館にいろんな事業を一緒になってやっています。それも含めた報告がこのような形になっていますので、公民館という館があって、そこに人がいることによってどんな地域に役に立つことをしているかということをもう一度掘り起こすということをしつかりやっけていこうと思っております。これが今後の自治組織の中における公民館・地区振興センターをどうするかという材料になるだろうと思っております。まずは昨年度かなり手こずりましたがこれだけまとめましたので、まだやっているんだけど報告してないというものもあるかもしれませんが、公民館があって人がいるからこそできる事業ということでこれだけあがっています。中には勝手に自主的にやっているグループの事業も載っていますので精査も必要なんですけど、当面1年間頑張っただけのことをうちの職員がまとめましたので、ご覧いただいて率直なご感想をお聞かせいただけたらと思います。基本的には地域の課題を何とかするとは言いますが、地域の細かいことをしっかりと掘り起こしながら、それを学びにつなげたり地域の形を作ったりするのが社会教育の本来の機能でしたし、公民館の機能でした。そのところを今一度人口拡大課にもこの2年間で理解していただきましたので、よりそういうことができるスキルアップのための研修を今年もやっていますので、そのためにも

今までこの中で足りないこととか、もっとこんな点をというご意見も併せてご覧いただけたらと思っています。なかなか苦慮しながら進んでいるという状況ですが、学習活動だけでいくと市内の真ん中3つはしっかりやっています。特に吉田・高津はしっかりやっておられます。貸し館もすごく多いです。昔頑張っていたのに学習活動が非常に減っているということ、しかしながら現場の声は4人いるけどなかなか仕事が忙しいということ、忙しい原因は何なのかということ突き詰めないと結局住民たちの地域課題をしっかりと掘り起こすという本来あるべきところができないので、行政の出先としてのところを見直し過ぎているのかなという分析も今人口拡大課としております。そういうところも含めて委員の皆さんにまた是非見ていただいて、住んでおられるところの公民館にちょっと立ち寄っていただいて、このデータを基にお話ししていただくことも必要かなと思っていますのでよろしくお願いします。

それからもう一点、未来を担うひとづくりに関する資料をご覧いただけたらと思います。先ほど島田課長が言われた中で言う「キャリア教育・企業家教育による人材の育成」のところに関係する未来を担うひとづくり計画に関して、今年3月頃からいろいろなところと話しながら今これだけ事業が出ています。これが要するに私たちが予算を持っているだけではない、民間を含めてこれだけの事業をやりながら次世代をどう育成するかというための集まりをここまでまとめました。こんなふうの一つの目標に向かっていろんなところで一緒になって協働しながらこういうことがやっとなされたという姿だろうと思っています。これを学校教育でしたら全ての学校にいかに広げるかという点、それからもっと民間でもこれをしっかりやるという点、公民館でももっとしっかりこれをするという点をこれから充実させていこうと思っています。これまでのところでこれだけ事業等をまとめることができているというところの現状報告とさせていただきます。

村川教育長 2つの報告がありました。公民館の活動状況については今日はお配りしただけということですか。

大畑課長 事前にお配りする予定でしたができませんでしたので、またじっくり見ていただきたいと思います。それから公民館にもし機会がありましたらお声掛けをしていただいて、委員の皆さんに見ていただいているということを知らせたいなと思っています。

村川教育長 もう一つについてはいかがですか。

大畑課長 今見られてもし何かご質問があればお答えしたいと思います。

渡辺委員 今大畑課長がお話しされたことに私も同感なんです、これを見ますと公民館は毎日のように何かをやっておられるというのは分かりました。でも今言われたように、地域の課題を把握してそれに向かってどう解決

しようかということ、それを勉強しながら次のステップに進んでいこうというところが見えません。成人教育という形の中でもっと学級とか講座というものを、もちろん自分の教養にもなるけども、いずれ地域の人材育成につながるというようなものがあるんです。そのところをここで足りないものをどう強化していくのかということがこれからの課題じゃないかなと私は思います。

中野委員 未来を担うひとづくりに関する事業ということで、今やっぱり若者流出ということが非常に課題になっているのかなというふうに思っています。やはり町を活性化するには若者の力が必要なので、それを幼・保・小・中・高のところでしっかり人材を確保できるようなきっかけづくりをして、この益田の町の未来に向かって活性化できるようにやるということは非常に大切なことだと思っています。加えてやはり学校関係者とか団体だけでなく、やっぱり地域の皆さんも一緒に関わってどうこの町を良くするかということ的前提を考えていかないといけないのかなというふうに感じましたので、一言申し上げました。

大畑課長 ありがとうございます。中野委員さんが所属の市P連も今年10月の研修会はキャリア教育に資する講演会を今年もやっていただけということで、私たちのほうで企画をお手伝いさせてもらっていますので、これもまた盛り込めるかなとっております。いろんな方がいろんな分野でやっていただいているのはありがたいなとっております。実は今日益田高校にいろいろと打ち合わせに行ってきたんですが、益田高校の教頭先生と話しながら、入ってくる子供たちの高校入試の実態にかなり危惧を持っておられました。学力テストもですが、高校入試の実態のところ、私は関係ないところではあったんですが、かなりその辺の話も聞きながら、子供たちの学ぶ意欲のところとか、入ってからの意欲のところとか、でも入り口の試験の点数のところをかなり危惧されているご意見を今日いただいてびっくりしました。高校所管ではありませんが、その辺の情報交換も含めながら、今後具体的な事業をする中で共有しないといけない情報というのが多々あるなというのを感じましたのでご報告申し上げます。

水上委員 この中のカタリ場というのはどんなことをするのかなというのをテレビでくらいしか分からなかったんですが、漏れ伝え聞くと、とても子供たちが興味を持って、スッと引き込まれるような授業だったというのを聞きました。こうして見ると今年は中学校でやったり高校でやったりすることなんです、是非いろんな子供たちに体験してもらえようような設定にしてもらえたらと思います。それで何かに気付いて、またそれを将来自分が歩む道とか、そういう人が地元にいるんだというのを感じれば地元意識も芽生えるだろうし、将来自分もこういう人になりたい

という思いも芽生えるかもしれません。ちなみにカタリ場というのはどういうものなんですか。

大畑課長

NPO法人カタリバというのが、主に大学生を中心に高校生に対して自分たちの人生の曲線を伝えながら、挫折など自分のことを語ることによって、今を頑張ろうというメッセージを伝えて、それを高校生が聞いて、「そうか、こんな身近なお兄さんもそうなんだ。」というような斜めの関係を作りながらやるというのが、カタリバが全国に展開しているやり方です。益田は大学生がいませんから若い方たちに事前の研修を2回して今回益田高校さんで3月にやりました。益田市の中で今若手として頑張ろうとしている方たちが自分の人生を振り返って10～15分語って、それを高校生が聞いた後に対話をするという形のプログラムで、自分自身これからどういうふうに生きていこうかなということをしつかり心に火をともしというような営みですので、そういうことが大事だろうという事業展開です。益田は特に外からでなく地元の方でこれを作り上げて、持続可能なシステムにしたいなと思っております。中学校に関しては「益田人100」という人たちを中心に今研修を組んでやろうと思っておりますので、6月27日に高津中学校でやりますが、これは高津中学校からやりたいという申出がありましたので、他校の方とかいろいろな方にご協力いただいている中での初めての取組です。またご意見をいただきながら実施していきたいと思っております。

水上委員

キッザニアも例の東京の益田版かもしれませんが、いろんな手法を変えてやっておられるなというのを感じて、若いお父さんお母さんが興味を持つようにしておられて、いろいろな面で感心しております。

大畑課長

高津公民館の城市主事さんを中心にやっておりますが、ただ仕事を教えるだけではなくて、中にはサッカーのスポ少の指導者をしておられる方がなぜ自分がここでこんなことをやっているのかという話を聞いて、関わった指導者の方も学びが多かったというふうに感想を聞いております。今公民館でもこうして動き始めましたので、みんなが地元の子供たちをしっかりと益田で生きることの素晴らしさを伝えるということを地域でも学校でもしていきながら、その中で将来外国だとかどこどこで頑張ろうと羽ばたくのはいいんですが、しっかりと益田というものを植え付けるということに関してはかなり多くの方に同意いただけるような雰囲気広がってきております。

水上委員

地域の方が関わって運営するというのが良いですね。こっちサイドばかりがやって地域の方が参加するというのではなくて、運営する側に地域の方が、しかもそこに特に若い方が入って企画をされるというのは、見ていてもすごく将来に希望が持てるなというふうに思います。すごく良い企画だなと思えました。

大畑課長 お仕事マナブスクールも中野委員さんが属されている商工会議所青年部の方が去年良かったと、今年も是非続けたいということで、産業祭の中でそういう取組をされるということです。それから益田J.C.さんもこういった取組がしたいということをおっしゃっておられましたので、特に地元で頑張っておられる事業所の若手の方が、本当にこれが大事だということを思っておられるというのを肌で感じますので、更に一緒になってやっていきたいと思っております。

村川教育長 また日程ですとか具体的なことが分かり次第、委員さんにも見ていただけるように周知をお願いしたいと思います。ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

島田課長 お手元に6月の献立表をお配りしております。5月もようやく終わりが近づいてきまして、2か月近く実績を積んできました。4月は安全なものを出すということをお大前提にやってまいりまして、5月に入ったところで徐々に余裕が出てきたのかなというところです。機材も新しくなったということで、今までできなかったことができるようになったということもありまして、栄養教諭が非常にワクワクしながら今調理をしております。先日も鶏の照り焼きを出したんですが、今までであればもう既に味付けされているものを解凍して出すことしかできなかったところを、肉に味付けをして初めて出したということで、そういう形でちょっと一工夫ができるというそのワクワク感がきっと子供たちにも伝わっていくのかなと感じています。それから6月は虫歯予防デーもありますので、給食のテーマを「よくかんで食べよう」ということにしております。パリパリした音がするものであるとか、食感を楽しめるようなものを中心に献立を組んでおります。特に毎週水曜日についてはごはんが麦ごはんになっておりまして、普通のごはんとの食感の違いを楽しむ日を週に1日設けております。そして下のほうに載せておりますが、6日からのところで「まごはやさしい」という「まめ」「ごま」「わかめ」「やさしい」「さかな」「しいたけ」「いも」のそれぞれの頭文字を取って昔からこういう表現があるそうなんです、それを子供たちにお出しして、そういったことについても学んでいただくという趣向になっております。それから毎月1回程度パンの日を設けておりまして、5月は今日がパンの日で、6月はありませんが、月に1回は違う趣向でということでパンを入れるように工夫しています。しかしながらパンについては製造業者がいなくなりましたので冷凍のパンを使わせていただいております。それから裏面ですが、いつもは食材を搬入していただく業者の

方とか生産者の方の記事を載せているところですけども、今月はクッキングフーズさんの職員の記事を載せております。今回初めて給食業務に携わられる方が非常に多いということなんですが、かえってそのことで栄養教諭の指示を抵抗感なく聞いていただきまして、スムーズに仕事ができているという感想があるようです。今まで経験されておられる方ももちろんいらっしゃいますので、その方を中心とした流れがうまくできているようです。先日PTAの方が視察に来られまして、ここに載っている記事などを参考に家でも話すことが多くあるようでして、益田の特産物は何かということをお母さんに子供さんのほうが知っているということがよくあるようです。こういう一つ一つの積み重ねが食育というものにつながっているということを感じたところです。

それから先月のところで中野委員さんから提案いただきました児童生徒へのアンケートにつきましては、全学年についてはまだ非常に難しい状況がありますので、学年を絞って小学生と中学生それぞれ1学年ずつというところで今準備を進めているところです。また集計に時間がかかるかと思いますが、まとまりましたらまたお知らせしたいと思います。

村川教育長 これについて何かご質問等ありますでしょうか。

永田委員 娘がおいしいと言っていました。前は吉田の調理場から来ていたので今は近くになったからというのものもあるのかもしれませんが、給食がおいしくなったと言っていました。

島田課長 先日来られたPTAの代表の方も家で子供さんと話しをした中で、何が変わったかという話をすると、おいしいおかずが一品増えたと言ってくださったそうで、一品増えただけで「おいしい」が付いたということをお職員も喜んでおりました。

渡辺委員 この前ある女性の方と給食センターの話をしたんですよ。そのときに、「私たちも視察ができるのだろうか。」「ガラス越しなら見せてもらえるだろう。」「食べてみることもできるのだろうか。」「それは事前に頼めば食べさせてもらえるかもしれない。ただ実費はあるだろう。」というような話をしたんですが、そういうことは可能なんですか。

島田課長 可能です。現に自治会ですとかいろいろなところからご相談をいただいております。試食については発注に影響しますので、基本的には1か月前にはご連絡いただきたいというところですが、人数によっては直近でもある程度は対応できるかと思いますが、早め早めにご連絡いただければ対応はできます。その日程の中で栄養教諭が学校に出る日もありますので、そこと調整しながら相談させていただこうと思っています。ここ最近では医師会からも各先生方が見学に行きたいということでご連絡いただいているところです。

村川教育長 ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

山本補佐 お手元に中学校総体開会式出席表をお配りしております。中学校3年生にとっては最後の市総体になりますので、委員の皆さんに是非開会式に出席いただいて、激励の言葉をお願いしたいと思っております。

村川教育長 よろしくお願いいたします。これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

島田課長 お手元に5月に頂きましたご寄附の一覧表をお配りしております。それぞれ奨学金への寄附や絵本の寄贈などいただいております。

村川教育長 ありがとうございます。これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

川原部長 教育委員会とは直接の関係はないんですが、先般の熊本地震で熊本県内だけでなく県以外の支援対策もいろいろと取っておられるんですが、益田市に関しましては今熊本市のほうから1世帯2人の方が、一時的かも分かりませんが転居されている方がいらっしゃいます。この方々は小中学校の子供さんに該当される方ではないんですが、仮に今からそういう方が転居あるいは一時的にでもいらっしゃるようなことがあれば、東日本大震災のときと同じように学校で授業を受けられるような準備もできておりますし、あるいは精神的なカウンセリングが必要な子供さんがいらっしゃればそういう対応もできるような体制ができております。もし仮にそんな方がものすごくたくさんいらっしゃったら、予算的にもいわゆる補正予算が必要になるだろうということは予測されますけども、現時点ではそういう状況ではございませんが、準備としてはできているという状況です。ちなみに今益田市は市の水道部の職員が4人現地に赴いておりますけども、今後栄養士でありますとかそういう派遣要請もあろうかと思えますし、市営住宅の提供でありますとか全庁をあげて応援体制は取っておりますので、準備は整っているというところです。

村川教育長 これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 次回の日程を決めたいと思います。次回は6月28日火曜日の10時から定例教育委員会を開催いたします。それでは以上で定例教育委員会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

終了時間 15時00分